

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

記事活用 エピソード集



市況データを
農業経営に
活用

耕作放棄地の
解消に挑戦



組合員と
情報を共有

はじめに

日本農業新聞は令和3年3月12日、本紙「記事活用エピソード」の審査委員会をオンラインで開き、厳正な審査の結果、最優秀賞など入賞8作品を決定しました。

「記事活用エピソード」は、日本農業新聞に掲載された記事の中から営農や生活、勉強に役立つ記事を、読者の皆様からエピソードとともに募集し、記事を起点にした意識・行動の変化、発展などをご紹介いただくものです。

令和2年度は、農家やJA職員、地方公務員、主婦、大学生など、幅広い読者の皆様から173点の応募がありました。本紙を読み、地域おこし活動の励みとしたエピソードや、農産物市況を分析して農業経営に役立てた事例、読者投稿を趣味にして健康維持につなげている話など、多彩な作品が寄せられました。今年度は特に、新型コロナウイルス禍の中、農家向け支援策の情報収集に活用したというエピソードが目立ちました。新

聞の作り手としまして、応募いただいた活用方法から多くのことを学ばせていただきました。たくさん励ましとご期待の声もいただき、心より感謝申し上げます。今後、応募作品は社内で共有し、新聞制作や新規購読のPRに生かしてまいります。

日本農業新聞は引き続き、農業振興や地域活性化、農家の営農やくらしの発展を支える情報源として、読者の皆様の期待に応えられる紙面づくりに努めてまいります。御愛読いただいております皆様におかれましても、この「記事活用エピソード集」をお読みいただき、本紙活用の参考にしていただければ幸いです。今後とも何とぞよろしくお願いいたします。

令和3年5月

代表取締役社長

廣田 武敏

目次

2 はじめに

3 最優秀賞

村上 紀代美さん(岡山)

4 優秀賞

北村 正幸さん(滋賀・農業)

5 小野 義憲さん(福岡・JAみい)

6 奨励賞

中澤 和晴さん(北海道・農業)

馬場 充昭さん(千葉・農業)

西澤 希芳さん(JA東京中央会)

7 深谷 武司さん(JAあいち中央)

田畑 江梨さん(滋賀・JAこうか)

応募のお礼

8 「記事活用エピソード」

募集のご案内

●受賞者の所属や職業は応募時点のものです。

●審査委員(敬称略)

〈委員長〉

●北川 太(摂南大学 教授)

〈委員〉

●青山 浩子(新潟食料農業大学 講師)

●石堂 真弘(JA 全中 常務理事)

●廣田 武敏(日本農業新聞 代表取締役社長)



竹林跡にアジサイ植栽「あじさいロード」の記事に目が留まり、夫とその記事にきぎ付けになりました。というのも、平成31年2月、夫が「海の見えるアジサイ畑にしたい」との夢を持ち、裏山の耕作放棄地に270本のアジサイの苗を定植しました。ところが、令和2年夏の猛暑と少雨で、アジサイが枯れ始め、夢



岡山県浅口市 村上紀代美さん

農高生の活躍励みに 地域活性化へ奮起

はついえるかと思っていました。消極的になりかけた夫が、竹林跡であつても「あじさいロード」で景観を整えて地域活性化につなげている、という情報で、やる気と元気をもらったのです。

私たちの住む近くには、高校はないものの、空き家対策チームや、青年団があります。今では、色々な方々と協力して「海の見えるアジサイ畑」山里づくりへの夢に向かっていきます。そうした活動を通して、若者も年配者も交流し合い、地域活性化へとつながっていくんだと、この記事で確信したのです。夫に気力を与えていただき、ありがとうございました。

講評

記事をきっかけに、夫から家族へ、家族から地域活性化へという広がりがあり、素晴らしい。実行力があり、読む側に励ましを与えてくれます。心情がよく伝わり、心動かされるエピソードです。



夫の宏一郎さん(左)と、紀代美さん。アジサイは令和2年夏の日照りで40本ほど枯れてしまつたが、村上さん夫妻の管理により、令和3年4月現在は元気を取り戻している。

●選んだ記事

竹林跡にアジサイ植栽
景観整備 住民と協力
岐阜県立加茂農林高校
(令和2年9月20日付)

景観整備 住民と協力

若者

竹林跡にアジサイ植栽

CD企画

梨、梨ジャム

高

この記事は、岐阜県立加茂農林高校の生徒と教職員が、竹林跡の景観を整備するために取り組んでいる取り組みについて、住民と協力してアジサイを植栽した取り組みを伝える記事です。記事には、生徒たちの熱意と努力、住民からの協力、そしてアジサイの成長の様子が詳しく紹介されています。また、記事には「若者」や「CD企画」などの見出しがあり、記事の構成や内容が一目でわかります。



「netアグリ市況」は、購読者限定の無料会員制サイトで、農産物市況を必要な時にいつでも机の上のパソコンで確認することができる。
 本県で令和2年7月上旬に発生した集中豪雨により筑後川支流の中小河川で内水氾濫が起こり、当JA管内の14ha余りの野菜ほ場や給水ポンプ等が冠水し、11億円超の被害が



福岡県JAみい 小野 義憲 さん

農産物市況を分析し

農業経営を支援

生じた。当JAの主力野菜である小松菜は回復におよそ13週間を要したが、被害発生からの市況の推移を「netアグリ市況」で見ることができた。

被害を受けた農家に対しJAから経済・金融事業支援等を行ったが、日本農業新聞紙面で被害状況を報道(発信)されたことが、後の農政活動にも役立つことはもちろんである。加えて、紙面で見える市況が「netアグリ市況」にて別途データ提供されていることで、被害前後の市況の動きを自ら自由に分析することができるとも日本農業新聞購読者のメリットである。

講評

大雨被害があつた地域で、大変な状況にも関わらずその直後から市況を細かく分析し、農業経営に生かすという実践的な使い方。農家や他JAにも広げていくことができる、優良な事例です。

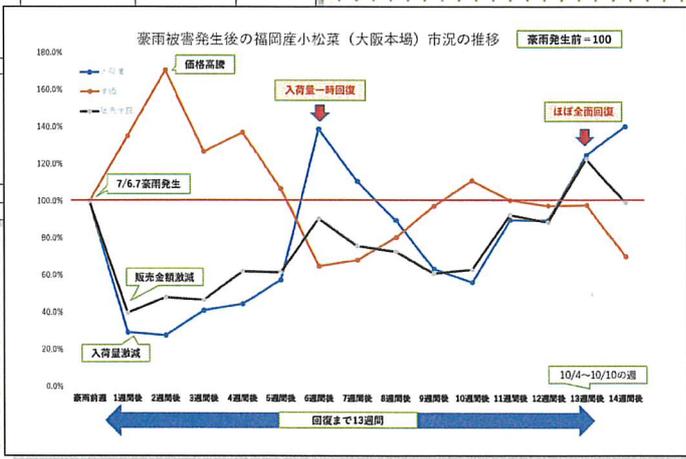
選んだ記事 netアグリ市況

日本農業新聞の購読者だけが無料で閲覧できる会員制のサイト。青果、花、畜産の相場を取引当日に確認でき、過去検索もできます。

小野さんが作成した、農産物市況の推移をまとめた表やグラフ

大阪本場市場 福岡産 小松菜 入荷量と単価の14週間推移

年月日	曜日	入荷量(kg)	kg単価(円)	入荷量(kg)	kg単価(円)	販売額(円)	
2020/6/21	日			※前週々週平均入荷量	※前週々週平均単価	3,553,451	
2020/6/22	月	16,841	211			3,553,451	
2020/6/23	火	11,134	267			2,972,778	
2020/6/24	水			14,817	281		
2020/6/25	木	22,461	277			5,221,697	
2020/6/26	金	13,238	296			3,918,448	
2020/6/27	土	10,412	356			3,706,672	
2020/6/28	日			※前週週平均入荷量	※前週週平均単価	3,380,977	
2020/6/29	月	8,647	391			3,380,977	
2020/6/30	火	7,694	397			3,054,518	
2020/7/1	水			14,161	349		
2020/7/2	木	25,034	354			8,862,036	
2020/7/3	金	15,881	311			4,938,991	
2020/7/4	土	13,548	291			3,942,468	
2020/7/5	日					4,835,798	
2020/7/6	月	19,833	269			5,335,077	
2020/7/7	火	10,603	299			3,170,297	
2020/7/8	水					3,546,538	
2020/7/9	木	10,152	349			1,027,434	
2020/7/10	金	3,142	327			1,875,042	
2020/7/11	土	5,342	351			2,990,878	
週平均(※単位は単位平均)				9,816	69.3%	319	91.5%





J Aあいち中央
深谷 武司 さん

農政情報いち早く収集

●選んだ記事

次期作支援の要件変更
農水省(令和2年10月16日付)

私は農協職員だ。組合員からの質問に対し分らないでは済まされぬ。

朝起きて仕事に向かう、その一歩が玄関に投函されている日本農業新聞を持って出掛けることだ。

今でも覚えている。10月16日、いつも通り職場に向かう道中で新聞を読むと、今まで準備を進めてきた「高収益作物次期作支援交付金」について運用の見直しを行うという記事が目飛び込んできた。

この交付金に申請してくれた組合員の顔が目浮かぶ。様々な声が上がらぬよう。

見直しについて日本農業新聞に掲載された時点で事前情報もなく、職員と組合員の情報量は一緒だ。新聞を手にとっていなかったら、記事を読んでいなかったら、組合員からの問い合わせに答えることができなかった。そう思うと身の毛がよたつ。

情報は鮮度だ。インターネットで自由に情報を手に入れることができる、その反面、好きな情報しか目に映らない。その中で常に情報を与えてくれる日本農業新聞は大切な存在だ。



滋賀県JAこうか
田畑 江梨 さん

農家提案への後押しに

●選んだ記事

農業者年金 農家女性 老後に備え
農水省(令和2年6月23日付)

農業者年金の担当をしています。これまでは「専業農家でも「お父ちゃんが入っているから自分には不要」と、経営主のみが加入しているケースがありました。また、年間60日間以上農業に従事していても「家業を手伝っている」という感覚で、農業者という意識が薄いことも加入につながらない要因と考えられます。

記事にある通り、女性の方が長生きする時代、農家女性こそ老後の備えが不可欠となっています。国民年金だけの老後生活は困難だと周知されるようになり、徐々にご夫婦で加入する方が増えてきていますが、今後とも「自分が農業者年金に加入できる」と知らなかった」という方がないよう、このような記事を活用しながら、おすすめしていきたいと思えます。



ご応募

ありがとうございます

ございました

「記事活用エピソード」募集には、165人の方から173点のご応募がありました。応募者の最年少は22才、最年長は86才と、昨年度に続き幅広い世代の方から作品が集まりました。心温まるたくさんエピソードをご応募いただき、誠にありがとうございました。





記事活用エピソード を募集しています

「日本農業新聞」の記事で、営農や生活、勉強に役立った記事を読者の皆さんから、エピソードとともに広く募集します。ふるってご応募ください。

応募書類

原稿用紙やWord文書などに次の事項をご記入の上、ご応募ください。

- ① 読んだ記事の見出しと、掲載日
- ② 活用に関するエピソード(400字以内)
- ③ 応募者の氏名、住所(郵便番号含む)、年齢、性別、職業、電話番号

応募方法

① 郵送 ② メール —— のいずれかでご応募ください。

応募・ 問い合わせ先

日本農業新聞 普及推進部「記事活用エピソード」募集係 宛
〒110-8722 東京都台東区秋葉原2-3

☎電話:03-6281-5803 ✉メールアドレス:suishin@agrinews.co.jp

審査

(1) 審査方法

- 社外識者を含む審査委員会を設置し、応募書類に基づき審査します。
- 応募多数の場合は、日本農業新聞社内で事前審査を行います。

(2) 審査基準

- 当該記事の活用に関するエピソードに独自性があるか。
- 当該記事の活用に関するエピソードに共感できるか。
- 農業・農村の振興や暮らしの改善、協同組合の発展につながる活用か。

表彰

最優秀賞 1点	受賞者には賞状と副賞(最優秀賞10万円、優秀賞5万円、奨励賞5,000円)を授与します。
優秀賞 2点	
奨励賞 5点	

発表

- 入賞した方に直接通知します。
- 最優秀賞と優秀賞の受賞者の方は、日本農業新聞が主催するイベントなどで表彰します。

その他

- 応募作品の著作権および著作権は主催者に帰属します(応募作品は返却不可)。
- 応募作品を冊子やパンフレットなどで紹介することがあります。

応募締め切り

令和3年12月7日(火) 必着